

インターバンクの声（2015年8月5日）

ドルは対円、ユーロともにロンドン、ニューヨーク市場でも上値の重い取引が続き、そのまま静かに一日を終えると思われた。しかし、連邦公開市場委員会（FOMC）メンバーの中でも中道的で FOMC コンセンサスを代表するようなアトランタ連銀のロックハート総裁がウォールストリート・ジャーナルとのインタビューで、9月の利上げが適切になりそうだとの認識を示したことが伝わると、為替市場もにわかにドル買いが優勢になった。ポジションが大きくドル・ショートに傾いていないこともあり、所詮ドル円で50銭、ユーロで70ポイント程度の変化とは言ってしまうまでもだが、雇用統計の発表が金曜日に控えている割には反応が大きかった気もする。ただ、ドル円は最近話題になっている“黒田ライン”を昨日も超えることはなかったが、雇用統計次第では久々に125円に乘せる流れが戻りそう。利上げへの警戒感から NY・ダウや S&P500 も下げたものの下げ幅は大きくなく、利上げによる負担よりもより強い景気期待を優先させたような印象だ。今晚発表される ADP 雇用統計も数字次第では、金曜日を待たずにさらにドルを買い進めるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。